

国際シンポジウム

揺さぶられる司法科学

揺さぶられっ子症候群仮説の信頼性を問う

開催日時

2018年2月10日（土）

10:00～18:00

（開場9:30）

会場

龍谷大学

響都ホール

校友会館

（京都駅八条口より徒歩1分

京都アバンティ9階）

参加費無料

（定員300人、要事前申込）

逐次通訳あり

基調講演

ウェイナー・スクワイヤー

（元オクスフォード大学ジョン・ラドクリフ病院・神経病理学）

キース・フィンドレイ

（ウィスコンシン大学ロースクール、ウィスコンシン・イノセンス・プロジェクトシニアアドバイザー）

ケイト・ジャドソン

（ウィスコンシン大学ロースクール、イノセンス・ネットワークSBS担当）

講演・パネルディスカッション

青木信彦（ベトレヘムの園病院院長・多摩医療センター名誉院長・脳神経外科）

岩瀬博太郎（千葉大学・法医学）

荒木 尚（埼玉医科大学・脳神経外科）

朴 永銖（奈良県立医科大学・脳神経外科）

埜中正博（関西医科大学・脳神経外科）

秋田真志（大阪弁護士会）、川上博之（大阪弁護士会）、高見秀一（大阪弁護士会）

高山 巖（大阪弁護士会）、三村雅一（大阪弁護士会）

笹倉香奈（甲南大学・刑事訴訟法）

総合司会

古川原明子（龍谷大学・刑法）、黒原智宏（福岡県弁護士会）

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUGAKU UNIVERSITY

趣旨

近年日本では、子供を揺さぶり虐待したとして、逮捕・起訴される事件が頻繁にみられます。しかし、アメリカやイギリスをはじめとする諸外国では、揺さぶられっ子症候群（SBS）の理論的根拠等に対し90年代以降疑問視する傾向が強まっています。その結果、子供を揺さぶって死亡させた等の虐待事案に対して言い渡された有罪判決が見直されるケースも増えています

そのような潮流の中で、SBS仮説への疑問から有罪判決を破棄して無罪を言い渡したスウェーデンの最高裁判決（2014）とSBS理論の科学的合理性に疑問を呈した同国調査団報告書（2016）は、世界的に非常に注目されています。

本シンポジウムでは、これまで日本にほとんど紹介されて来なかった上記のような諸外国の状況を踏まえて、国際的・多分野的な観点からSBS理論の信頼性を徹底的に検証します。

プログラム

詳細は、2018年初頭に、龍谷大学 犯罪学研究センター、その他共催団体HP上にて掲載予定。
龍谷大学 犯罪学研究センターのHP →<http://crimrc.ryukoku.ac.jp>

参加申込

<http://goo.gl/forms/AKQyo3BAwqizdKGo2>

↑ネット申込（Googleフォーム）にて承ります。

もしくは、下記のお問い合わせ先まで、FAXにてお申し込みください。

お問い合わせ先

龍谷大学 犯罪学研究センター

[TEL] 075-645-2154 [FAX] 075-645-2240



主催：龍谷大学犯罪学研究センター（科学鑑定ユニット）

共催：SBS検証プロジェクト、刑事司法未来プロジェクト、えん罪救済センター

後援：大阪弁護士会、京都弁護士会、兵庫県弁護士会

↑ネット申込の窓口は、こちらのQRコードを利用してアクセスすることも可能ですので、ご利用ください。